

# その名大口

誇りと愛着のある学校

H28年10月28日

## 「自分を高める」 1学年 内門英一郎先生

おはようございます。私は人生で大事なことは大きく2つあると考えています。1つは自分と「他」との関係を良好とまではいかなくても、上手に保つということです。特に他人とです。この話はまた別の機会にしたいと思います。もう1つの重要なことを今日は話します。それは自分を高めると言うことです。自分を高めることは自分のためにだけなるわけではありません。自分を高めることは他の人のためにも、そして社会に貢献することにもつながります。これは以前勤務していた学校で運動部員全員に配られていた「選手心得」です。この中からいくつか紹介しますが、自分を高めることについて考えてもらいたいと思います。[生徒に「選手心得」を配布。]



まず「生活の基本をおろそかにして技術が身に付くはずがない」を見てみましょう。服装が乱れていたり、時間に遅れたりすることは自分に隙があったり、自分に甘かったりすることです。そういう人は技術を身に付けるときも妥協することが多いので、しっかりとしたものには付きません。これはスポーツに限ったことだけでなく、人生や受験等についても同じです。日頃から物事をよく考え、日常をしっかりと生活することが大きく失敗しない一つの道だと思います。



今年3年目になった「里帰り報告会」の様子。1年生が母校に帰って成長した姿を見せ、大口高校をPRします。大口中央中と薩摩中での様子。



もう1つ、「できない」と「やろうとしない」は全く違う。を見てみましょう。高校生活も半年が過ぎましたが、勉強や部活動で伸び悩んでいる人はいませんか？ 自分には〇〇はできないと言う人がたまにいますが、ほんとうにそうでしょうか？ 勉強ができないと言う人に家でどれくらいの時間学習しているのか尋ねると、ほぼほとんどあるいは全くしていないと答えます。自分はほんとうにできないのか、あるいはやっていないだけなのか、よく考えてみてください。そしてやっていないだけなんだと思ったらとりあえずやってみてください。それを続けることができれば、次第に成果が出てくると思います。

「選手心得」には今日紹介したほかにも、部活動だけでなく人生で役に立ちそうなことがたくさん書かれてあります。よく目を通してこれからの生活に役立ててみてください。

## 「『3・4・3』の法則」 2学年 鶴田昌子先生

「3・4・3（さしみ）の法則」を知っていますか？『ある集団の中で、言われなくてもする人が3割、言われたらする人が4割、言われてもしない人が3割いる』ということを表しています。普段の学習で言われなくても英語を勉強している人はどれくらいいますか？先日の中間考査では、残念ながら言われても勉強しなかった人たちが軽く3割を超えていたように思います。体育祭の2学年種目「集団行

動」では、本番が近づくとつれて言われなくてもする層が増え、集団として輝きが増し、当日のパフォーマンスは見応えがありました。体育祭の時のような気持ちの引き締まった集団を目指しましょう。学習だけでなく清掃や部活動などに真摯に取り組み、「3・4・3」ではなく「7・3・0」を目指しましょう。期待しています。

右は、人権同和教育の職員研修(10/12)と交通安全教室(10/20)の様子。



研修を受けて統一LHR(10/18)が実施され、「差別と闘いの歴史」(1年)

「結婚差別を乗り越えて」(2年)、「水俣病問題」(3年)について学習しました。



### 「チャンスをつかめ」 3学年 盛満淳弘先生

なぜ二つの耳を持つのか？

このことについてゼノンというギリシャの哲学者は次のようにいいました。

自然は人間に一枚の舌と二つの耳を与えた。

だから人は話すことの二倍だけ聞かねばならない。



いろいろな人の話をくだらない話と決めつける前に、まずは話をよく聞いて、そこから何かを得られるようにしましょう。

さて、「チャンスをつかめ」という言葉はよく耳にします。これは短くなった言い回して、実際には「チャンスは前髪をつかめ」のようです。チャンスは前髪とは、ギリシャ神話に出てくる男性神カイロスのことです。カイロスは



全知全能の神ゼウスの末子でその風貌は「前髪は長い後頭部の禿げた美少年だそうです。このカイロスは神出鬼没で、すばしっこく、ゼウスですらなかなか捕まえることが出来なかったといわれます。さらに捕まえられるのは前髪だけで、前髪を捕まえ損ねてしまうとあつという間に見えなくなってしまいます。運よく後頭部を捕まえても、つるつるしているため滑って逃してしまう、というエピソードに由来しているそうです。



チャンスをつかむためには準備をしっかりとっておかなければなりません。せっかくチャンスが来ても、それに気づかないということがないように。就職試験や入学



試験を受験するとき、受験報告書や受験レポートを見ませんでしたか？先輩たちが残してくれたものを調べるのもチャンスをつかむ前準備だと私は思います。

自分たちも後輩たちがチャンスをつかむ準備のための何かをしっかりと残していきましょう。



上から4枚の写真は、「第8回伊佐市青少年健全育成大会」(10/22)の様子。「黄金の俳句コンクール」で市長賞を受賞した中島里菜さん。句は「竹ぼうき 掃いて奏でる 落ち葉の音」。3枚は伊佐市内の中高生ダンスグループCHIMDONの演舞。大会ではこれまでの「チームちむどん」の活動が紹介され、震災からの復興

を祈る演舞と薩摩隼人の生き様を天下に示した新納忠元の演舞が発表されました。畠中太勢君・小門真也君・河野信司君・森永華恋さんが出演しました。下の写真は中高生連携推進事業の「本物感動文化フェスティバル」(10/16)の様子。大口中央中・菱刈中・大口明光学園・大口高校による合同演奏。指揮は本校の前田裕一教頭です。